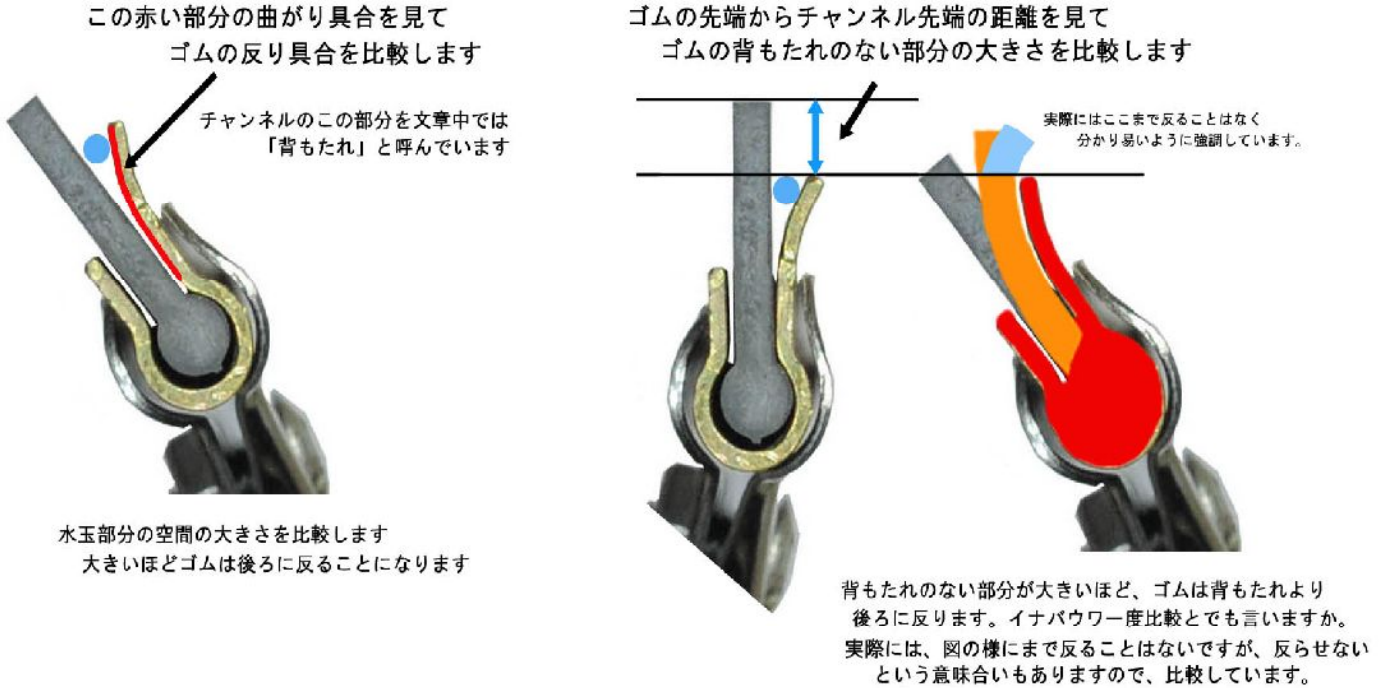


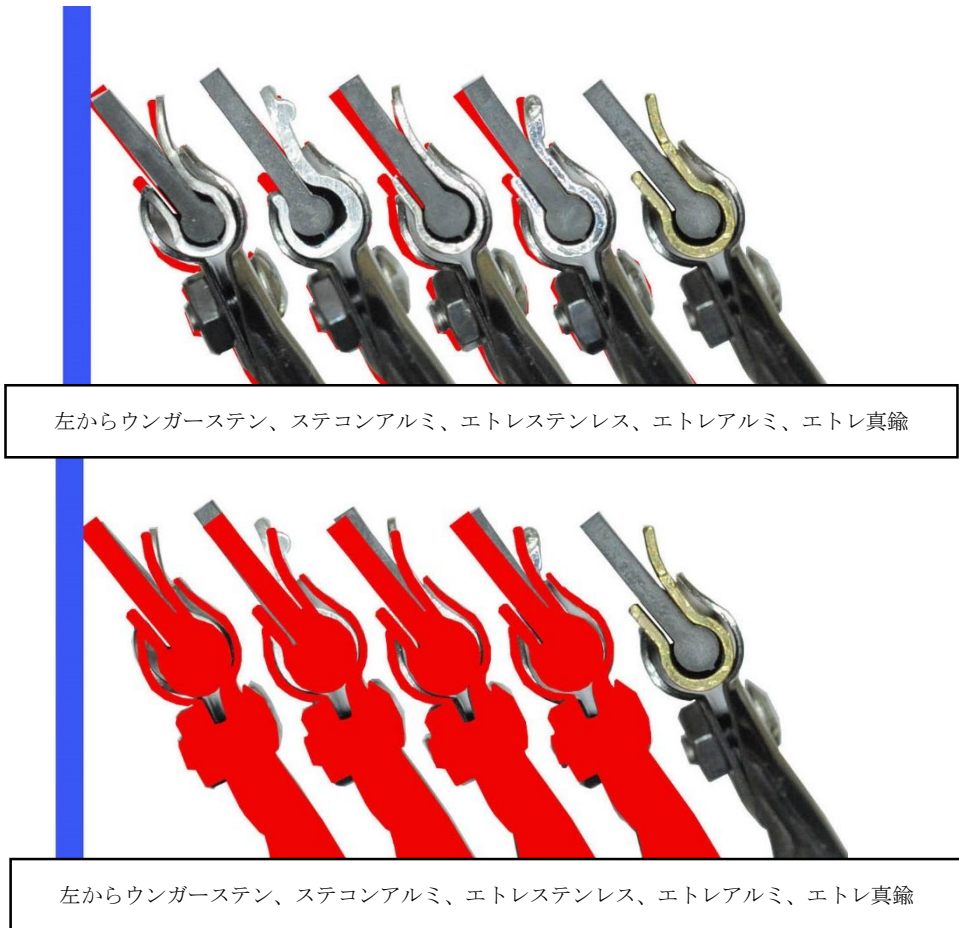
〈チャンネルの比較〉

次は、チャンネルを見ていきますが、微妙な形の違いを比較して違いを考察することは難しいと考えますので、チャンネルの反り具合を見て、寝かす側が得意か、立てる側に得意かということを中心に推察したいと思います。

〈比較する部分〉



比較の仕方は、ハンドルの時と同じようにエトレの真鍮を基準とし、真鍮の影を赤で塗りつぶし、前、後ろに重ね、形状の違いを比較します。重ねる基準は、ハンドルのチャンネルを保持する背中部分としています。バックプレート側にはみ出て見えるのは、チャンネルの厚さの違いなどからくるその差分となります。

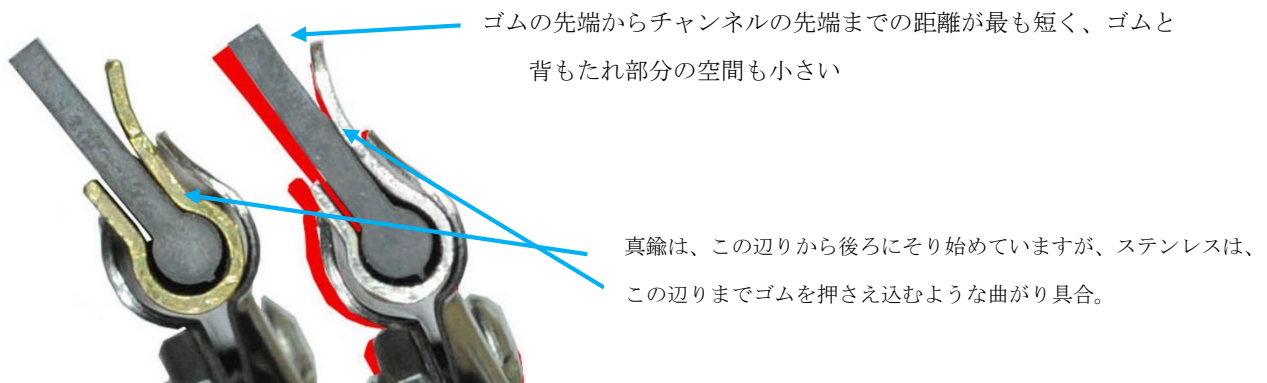


ウンガーのステンレスは、真鍮より水玉部分の空間が広く、背中側に反っています。背もたれがない部分の大きさも真鍮より大きく、イナパワー度は高いことになり、ゴムはひっくり返りづらく、立てる側に強いことになりま
す。ゴムを後ろに良く反らすということは、ハンドルを寝かせた場合にはゴムのお腹部分がガラスに当たりやすいと
いうことで、ハンドルを寝かせた場合は、真鍮より膜が張りやすいと言えます。ウンガーハンドルに取り付けた際
は、立てる側に強いハンドルに、立てる側に強いチャンネルの組み合わせとなるので、やはり立てる側を重視した製
品となっているとあって良いでしょう。後述のエトレのステンレスとは真逆の性格となるので、2大メーカーの違い
がよく現れている製品と思います。実際の使用では柔軟性の高さを感じます。

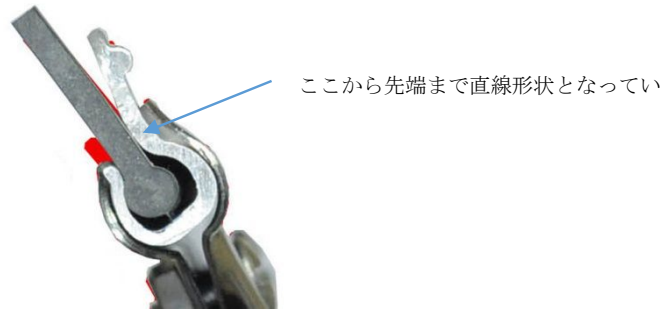


エトレのステンレスは、真鍮と背もたれ部の曲がり具合は似ていますが、水玉部分の空間が狭くなっています。背
もたれの高さはステンレスの方が高く、チャンネル自体が後ろに反り始める位置も違ってきます。(下図参照) 真鍮
は、ゴムの付け根付近から背中に倒れ始めていますが、ステンレスは、ゴムの中間ぐらゐまで反っていません。押さ
え込んでいるようにさえ見えます。また、高い背もたれは、イナパワー度がとても低く、広い背もたれにより、後
ろに反り過ぎないようにしています。真鍮に対して反らないということは、寝かせた場合にゴムのお腹が出っ張ら
ず、真鍮よりエッジが効かしていると言えそうで、真鍮のスクイジーが滑らかな切り心地なのに対し、ステンレ
スは、常にエッジを効かせてシャープな切り心地を追求している感じです。エッジが効いていることと広い背もたれに
よるイナパワー度の低さから、サッシ際でもゴムが負けずにしっかりと入っていきそうです。

真鍮もステンレスも似たような形状とと思っていましたが、こうやって見比べてみると真鍮とステンレスでは、違う
特性を持たせていることが分かります。



・ステコンのアルミチャンネルですが、



チャンネルの背中部分は、R部分を持っておらず直線で、ゴムを納めるRの終点から背中方向に一直線に伸びている独自の形状をしています。チャンネル自体の幅が広く、高さも真鍮より大きいですが、肉厚とチャンネル底部が直線となっていることから、他のチャンネルより底上げされており、ゴムは高い位置に配置されます。そのため、ゴムの背もたれがない部分の大きさが、エトレのステンレスより大きく真鍮とさほど変わらないぐらいとなっています。水玉部分の空間は小さく、チャンネルは真鍮より反らないことから判断すると、立てる側には強そうではありません。となりますが、他とは違う直線形状をもう少し見ていこうと思います。

一番の特徴は直線のチャンネル形状。ガラス面に実作業程度の力加減で押し付けると、ゴムはぴったりと背もたれに密着します。このとき既に、イナパワー状態が僅かながらも現れゴムは、先端付近で反っています。この状態は、ハンドルを立てて力を入れたとしてもあまり変わりませんが、ハンドルを寝かせていくとゴムの反りが若干戻ります。分かったことは、ハンドルを寝かせていってもチャンネルがRのない平面のため、ゴムのお腹辺りが出っ張らず、ゴムのお腹辺りが当たりづらいことです。ということは、ハンドルを寝かせてもエッジが効いているということになります。実際は、イナパワー効果でゴムの先端付近が反るため、お腹が全く出ないわけではないですが、ゴムの上部で反るので当たりづらく、やはりハンドルを寝かせてもエッジが効く範囲が広いといえそうです。反面、ハンドルは後ろに反り気味なので、ハンドル側で立てる側に許容範囲を持たせることで、スクイジーとしてのバランスを取っているのではと推察します。実際の使用感では、ハンドルを立てる側に余裕がないという印象は無く、エトレのハンドルに取り付けても、特に立てる側に弱いという印象はないのでまだ秘密が隠れているのかもしれませんが。

・最後にエトレのアルミチャンネルですが



これもまた独自の形状をしています。もともと直線形状のチャンネルを、曲線部を持たせて曲げるというより一点に力を加えて曲げたような形をしています、そのため2段階の直線部を持っているのが特徴です。

第一の直線部①は、ゴムの中間ぐらいまで伸びていて、力を掛けるとこの位置からゴムは曲がって後ろに反ります。曲がる位置からゴムの先端までの距離は短いので、ゴムが元の状態に戻る力、他のどの製品より強く働いていると思われます。エトレのステンレスも、同じ意味合いの形状を持っていますが、反る量、イナパワー度が全く違うため、押し付けたときにゴムが戻ろうとする力はアルミのほうが強く働いています。この反発力は、ハ

ンドルを寝かせた場合に、ゴムを支える背もたれがなくともエッジをある程度効かせることに働き、寝かせる側での許容範囲を広げているのではと推察します。第二の直線部②は、背もたれの先端部分が独特な形状で丸く低く、水玉部分の空間がとても広いので、ゴムをととてもよく反らすような構造となっているといえます。しかし、イナバウワー状態が現れる状態にするためには、幅広のサッシ際でキメる際のような立て方で、かなり押さえつけた状態でないと現れません。ハンドルを立て気味で、強く押しつたぐらいではイナバウワー状態は現れず、直線部②にぴったりくっついた状態のままです。押し付ける力加減、立て方によってゴムの状態が様々に変化するように感じます。以上のことから直線部①では、ハンドルを寝かせた状態で、背もたれがなくともゴムの反発力でエッジを効かせるために働き、直線部②は、ハンドルを立てた状態でゴムを反らして許容範囲を持たせ、さらに先端の楕円形状は、しっかり押し付けてキメを決めるときにゴムの返りを防ぐように働くと思われる。そしてアルミハンドルの方は、真鍮より角度を深くすることで、よりスクイジー全体としての広いバランスを狙ったものと推察します。

仮に、うたい文句を、滑らかな切り心地の真鍮スクイジー、シャープな切り心地のステンレススクイジーとするなら、マルチバランスのアルミスクイジーとでもしましょうか。

実際の使用では、ご自身の操作方法（癖）などに合うか合わないかということが、評価に繋がるころと思いますので、マルチバランスとは言えど、その評価に確実にアルミスクイジーが応えてくれるかは微妙なところでは。

素材のちがうスクイジーが三つあるぐらいに思っていました、さすがエトレといった感じです。

こうやって見ていきますと、同じエトレでも三種三様。ウンガーは、柔軟な使い勝手を。ステコンは、独自の形状で他とは違いを出しています。ここに挙げただけではなくもっと深い意味合いの形状部分もあるのかもしれませんが、ここで取り上げられるのは、ここまでとさせていただきます。

スクイジーは、形状のみならず、素材、重さ、剛性などにより使用感も変わってきますので、とどのつまりは、使い比べるのが一番ということになりますが、ハンドル、チャンネルの傾向により、実際の作業の状況に合わせた新たな道具の選択、異なるメーカー間の組み合わせなどの参考にして頂ければと思います。